

副首都推進本部（大阪府市）会議

《第15回議事録》

■日 時：令和7年2月18日（火）11：00～12：14

■場 所：大阪府役所P1階（屋上） 会議室

■出席者：吉村洋文、横山英幸、山口信彦、森岡武一、渡邊繁樹、高橋徹、山本剛史、
（名簿順）西山忠邦、大田幸子、長澤研一、上山信一

議題（1）尾花英次郎、上溝憲郎、彌園友則、中野直樹、丸山順也

議題（2）川端隆史、池田純子、丸尾利恵、西村謙三

（大田事務局次長）

定刻となりましたので、第15回副首都推進本部（大阪府市）会議を開催いたします。

本会議につきましては、会議公開の原則にのっとり、会議の状況をインターネットで配信し、配付資料、議事録は公表することといたしますので、あらかじめご了承くださいませよう、よろしくお願いいたします。

初めに、本日の会議の出席者を紹介いたします。

本部長の吉村大阪府知事でございます。

副本部長の横山大阪市長でございます。

有識者として、上山特別顧問にご出席いただいております。

そのほかの大阪府、大阪市の出席者につきましては、お手元に配付しております、資料1の出席者名簿のとおりでございます。

本日の議題は2つございまして、（1）夢洲第2期区域マスタープラン Ver.1.0（案）について、（2）Beyond EXPO 2025（現状報告）についての2点をご議論いただく予定ですが、議題に入る前に、府市一体条例に基づき、これまでの府市会議における合意事項の進捗状況についてご報告いたします。

昨年2月に開催いたしました第13回副首都推進本部（大阪府市）会議でご議論いただきました大阪公立大学の取組につきまして、その後、大阪府、大阪市は、「公立大学法人大阪に係る第2期中期目標」を定め、令和6年11月に法人に指示いたしました。現在、法人から申請のあった第2期中期計画について、年度末の認可に向け審査を進めているところでございます。以上、ご報告を申し上げます。

それでは、次第に沿って、議題1から進めさせていただきます。

資料2について、尾花大阪府・大阪市大阪都市計画局長から説明をお願いいたします。

（尾花大阪府・大阪市大阪都市計画局長）

大阪都市計画局長の尾花でございます。着座にてご説明を申し上げます。

お手元の資料2、タブレットにもございますが、マスタープラン Ver.1.0（案）の説明資

料に基づきご説明を申し上げます。資料２は、マスタープラン案本体の要点を抜粋し、12 ページに取りまとめたものでございます。

まず、1 ページでございます。マスタープラン策定の背景と役割でございます。夢洲のまちづくりにつきましては、2017 年に夢洲まちづくり構想、続いて、夢洲まちづくり基本方針を策定し、2022 年にはマーケット・サウンディングを実施するなど、検討を進めてまいりました。2024 年には、50 ヘクタールに及ぶ広大な夢洲２期の開発を一体的に進めるため、まちづくりの方針、いわゆるマスタープランが必要との認識のもと、開発事業者募集を２段階のステップに分けて進める方針を公表いたしました。

まず、昨年９月にマスタープラン策定に向けた民間提案募集を実施いたしまして、年明けの本年１月には２件の優秀提案を決定したところでございます。このたび、これらの優秀提案を参考に、大阪府市としてマスタープラン Ver. 1.0 (案) を取りまとめましたので、本日、ご承認を賜りました上は、パブリックコメント等を経て、同マスタープランを策定してまいりたいと考えております。

今後、このマスタープランに沿ったまちづくりの実現に向けまして、開発事業者募集の条件を検討し、２段階目として、2025 年度後半に夢洲第２期区域の開発事業者募集を開始する予定でございます。

次の２ページには、本マスタープラン（案）の目次構成をお示ししておりますので、ご確認ください。

続きまして、３ページをご覧ください。１の夢洲のまちづくりの経緯と状況でございますが、左側に、夢洲全体での取組と、これに対応して、右側には夢洲第２期区域での取組を示してございます。

続く４ページ、夢洲第２期区域まちづくりの考え方でございます。まず、まちづくりのコンセプトといたしまして、万博の理念を継承し、国際観光拠点形成を通じて「未来社会」を実現するまちづくりを掲げ、まちづくりの方針として、①エンターテインメントシティの創造、②SDGs 未来都市の実現、③最先端技術の実証・実践・実装の３点を示しております。

次に、５ページ、３の土地利用方針でございますが、大きく四つのゾーンに区分しております。

①ゲートウェイゾーンにつきましては、Osaka Metro の夢洲駅に最も近く、夢洲の玄関口として、高揚感や期待感を与えるにぎわい機能や交流機能などの導入を想定しており、ナイトアクティビティなどとともに、万博を契機とした最先端技術やイノベーション機能などの導入をめざしております。施設例として、商業施設、オフィス、宿泊施設、交流イノベーション施設、広場等を示しております。

②グローバルエンターテインメント・レクリエーションゾーンにつきましては、さらに２つのゾーンに区分しており、その一つはスーパーアンカーゾーンであり、２期区域における集客の中核となるゾーンでございます。夢洲でしか体験できない非日常空間を創出する、大規模で統一されたコンセプトに基づくエンターテインメントやレクリエーション機能の導入を

進め、親水空間などを活用した、ファミリーで楽しめる施設やコンテンツの充実を図ることとしております。施設例として、国際的なモータースポーツ拠点やアイコニックなラグジュアリーホテル、世界クラスのウォーターパーク、商業・飲食施設等を示してございます。もう一つは交流ゾーンとして、ゲートウェイゾーンからの人の流れやにぎわいを、隣接するエリアへつなげるハブ拠点の形成を図ります。人、情報の交流、にぎわいを創出する展示・交流機能やレクリエーション機能の導入を図ることとし、施設例として、アリーナや劇場、商業・飲食施設等を示しております。

③IR 連携ゾーンにつきましては、隣接する第 1 期の IR 区域との連携により相乗効果を高める機能の導入を図ることとしており、施設例として、ホテルや MICE 施設等を示しております。

④大阪ヘルスケアパビリオン跡地活用ゾーンでございますが、ヘルスケアパビリオンの取組を継承するため、先端医療・国際医療・ライフサイエンスに係る機能の導入を図ることとしており、このほか、施設例として、ホテル、オフィス、商業施設、MICE 施設等を示しております。

続きまして、6 ページ、4 の都市空間形成方針をご覧ください。（1）まちの骨格の形成でございます。

①うるおい軸と称しまして、駅前から大阪湾へ直線的かつ開放的な眺望を確保し、水とみどりを効果的に配置することといたしております。

また、②にぎわい軸と称しまして、駅前から各ゾーンを結び、将来的には第 3 期区域に至る、にぎわいを創出する歩行者の主動線を形成することといたしております。

右側に掲載の（2）上質な非日常空間の形成といたしまして、広大な土地を最大限生かしたゆとりのある建築物や道路、また、豊かな水とみどりを適切に配置した上質な憩いの空間整備とともに、夢洲でしか体験できない非日常を演出する都市空間の形成を進めてまいります。

続きまして、（3）水とみどりあふれる空間形成といたしまして、SDGs の達成に向けた環境共生などに配慮しながら、水とみどりを適切に配置し、うるおいと憩いを楽しむ空間形成を図ってまいります。

最後に（4）魅力ある景観の形成でございますが、アイコニックで個性豊かなデザインの建築物や、空からの視点などを意識したランドスケープ等により、第 1 期区域とともに、大阪の新たな象徴となる都市景観の形成をめざしてまいります。

続きまして、7 ページ、5 の基盤整備計画をご覧ください。

（1）道路ネットワークの形成といたしまして、区域の外縁部に観光外周道路とつながる道路を整備するとともに、土地利用計画、必要に応じて区域内に区画道路の整備を図ります。

（2）歩行者動線ネットワークの形成といたしまして、第 1 期区域から第 3 期区域まで、連続した回遊性の高い歩行者動線ネットワークの形成を図ることとし、観光外周道路を横

断する歩行者デッキ等の整備を誘導してまいります。

ページの下段には、(3) 円滑な地区内等移動手段の確保といたしまして、安全・安心で利便性の高い地区内移動を実現するため、循環型交通モビリティやパーソナルモビリティの導入を検討するとともに、万博において実証・実践される最先端技術を活用した次世代モビリティや、移動サービスなどの実装をめざしてまいります。

次に、8 ページをご覧ください。6 の万博レガシーの継承についてご説明を申し上げます。まず、ソフトレガシーにつきましては、大阪が強みを有する健康・医療産業などの研究成果に接することができるショーケース機能の導入や、最先端技術の実践・実証、また、スマートシティプラットフォームの構築など、万博の理念を継承する取組の展開をめざします。併せて、「夢洲コンストラクション」等で実現した最先端の技術やサービスを、この夢洲第2期区域の開発において展開してまいります。8 ページ下段には、このような取組の例を掲げてございます。

続きまして、ハードレガシーにつきまして、9 ページをご覧ください。大屋根リングと静けさの森につきましては、このたびのマスタープラン策定に向けた民間提案募集において決定しました優秀提案におきまして、大屋根リングの一部を残置改修して、モニュメントとして活用する提案や、大屋根リングを解体し、その部材をリユースし、ベンチやパーゴラなどに使用する提案がございました。

また、静けさの森につきましては、おおむね区域を変更せず、樹木を再配置する提案や、夢洲駅の南側に移設し、樹木を再配置する提案がございました。今後、これらの提案内容をベースに、大屋根リング及び静けさの森の所有者である公益社団法人2025年日本国際博覧会協会及び関係者と協議を進めていくことといたしております。下段の大阪ヘルスケアパビリオンにつきましては、右端に利活用部分を示してございますが、利活用の方針といたしまして、ヘルスケアパビリオンの建物の一部を残置または敷地内に移築し、民間事業者所有のもと、先端医療・国際医療・ライフサイエンスに係る事業を実施することなどとしております。

次に、10 ページ、7 のまちづくり DX・GX の推進をご覧ください。

(1) 安全・安心なまちの実現といたしまして、デジタル技術の活用等を通じて、災害レジリエンスの向上に努め、来訪者や従業員の安全・安心の確保に取り組むことといたしております。

(2) 快適性・利便性の高いサービスの提供といたしまして、万博で活用された先端技術やサービスの高度化に取り組み、夢洲への交通の円滑化や防災、環境、観光等にわたる都市マネジメントを実践してまいります。

(3) 環境技術を活用した持続可能なまちの実現として、カーボンニュートラル等の実現に向けて、万博での新技術の実装につなげるとともに、持続可能な社会の実現をめざし、グリーンインフラに関する取組を推進してまいります。

11 ページ、8 のエリアマネジメントの推進をご覧ください。開発事業者が主体となりま

して、エリアマネジメント団体を組成し、エリア全体の魅力向上をめざすこととしております。具体的には、まちの活性化、にぎわいの創出、安全・安心の取組を展開するとともに、スマートシティを支えるデジタル技術の導入、万博レガシーを継承する実証や実装の先進的な取組を推進することとしております。

資料の最後となります、12 ページをご覧ください。9の今後の進め方といたしまして、本日の副首都推進本部（大阪府市）会議において、このマスタープラン Ver. 1.0（案）をご承認いただきました上は、約1か月間パブリックコメントを実施いたしまして、3月末から4月頃を目途に、マスタープラン Ver. 1.0 を策定してまいりたいと考えております。その後、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会及び関係者との協議を経て、本年夏頃にはマスタープラン Ver. 2.0 を策定し、2025年度後半を目途に、夢洲第2期区域における開発事業者募集を開始してまいります。

なお、大阪ヘルスケアパビリオン跡地活用ゾーンにつきましては、先行して開発事業者を募集する予定でございます。

以上で資料の説明を終わります。よろしくお願い申し上げます。

（大田事務局次長）

ご説明ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明を踏まえ、意見交換に移りたいと思います。ご出席の皆様から、資料2に関しましてご意見などございましたらお願いいたします。

なお、本部長、副本部長におかれましては、最後に改めて総括をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

高橋副市長、よろしくお願いします。

（高橋大阪市副市長）

まずは、説明ありがとうございます。また、事務局であります大阪都市計画局、また、万博推進局、それから大阪港湾局、本当にこれまで事業者の提案のスタートから、今回のマスタープランの策定まで、関係機関の調整、ご苦労さまでした。

今般、優秀提案2案に基づいて、まちづくり方針、いわゆるマスタープランの Ver. 1.0 がこれでできたと思っています。今後、後半の事業者募集の準備ができたのだと、発射台が整ったと思っています。秋に向けて、夢洲の国際観光拠点の形成を通じて、大阪の成長、発展を共にめざしていける、これから事業者を選定していきたいと思うんですけれども、一つお願いが。

事業者側にとりましては、今は本当に資材、あるいは人件費の高騰でなかなか事業を組成しにくい環境にあります。特に今回、エリアが50ヘクタールということで広大であり、また、相当の規模になってきますので、今後、秋に向けての事業者の条件を作るに当たっては、事業者が柔軟に対応できるような条件設定というのを頭に置いて検討していただけたら

いなと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

(大田事務局次長)

ありがとうございました。

ほかにご意見ございませんでしょうか。

森岡副知事、よろしくお願いいたします。

(森岡大阪府副知事)

今の高橋副市長のご発言とかぶるんですけれども、まずは今回、民間募集、1ページにありますように、昨年の民間提案募集を行って、今年1月には2件の優秀提案が決まって、それをある意味包含する形で、このようにマスタープランの案ができたという、非常に喜ばしいことだと思います。

あと、万博のハードレガシーのところがありますけれども、9ページですかね。ここの扱いにつきましてはやはり、先ほど説明がありましたように、所有者である公益社団法人2025年日本国際博覧会協会さん、それとその他の関係者の皆さんとの協議、そして合意を得るということが本当に不可欠になってくるかと思いますので、その調整を進めていただきたいと思います。

本番となりますのが、実際にまちづくりを進めていただく事業者をどう確定していくかということになってきますので、土地の所有者によります事業者公募に向けて速やかに進めていただき、夢洲まちづくりというのをとにかく一刻も早く実現していただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(大田事務局次長)

ありがとうございました。

ほかにご意見ございませんでしょうか。

山口副知事、よろしくお願いいたします。

(山口大阪府副知事)

すみません。今頃こういうこと聞いたらいかんのかもわかりませんが、まず、このマスタープランの位置づけとはどういうものなのか。もともとマーケット・サウンディングをやって、このプランを作って、さらに公募もやるわけです。これの要は狙いというか、どういう位置づけでやろうとされているのか、もう少し説明していただけたらありがたいということと、もう一つ、これを作った後、今年の夏頃にVer. 2.0を作るとスケジュール的には書いてあるんですけれども、このVer. 2.0というのは、要は、説明では、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会とかと調整して、リングとか静けさの森の調整結果を反映させると

ということだと思うんですけども、ほかに特にあるわけではないんですよね。大きく変わる
とか、どこかのまちづくりの方針を変えとか。その確認をお願いしたいです。

(大田事務局次長)

尾花局長、よろしくお願いします。

(尾花大阪府・大阪市大阪都市計画局長)

ありがとうございます。

今、ご指摘いただきました2点あるかと思いますが、1点目の、当マスタープランの位置づけ、または狙いにつきますが、こちらについてはご説明しましたとおり、今後、開発する事業者募集を進めてまいりますにつけて、その開発事業者募集の要件、条件を整えていく必要がございます。そのためのまちづくりの基本方針として、このマスタープランをお示しした上で、詳細の募集条件については募集時の要項等で定めてまいりたいと思いますので、そのベースになる役割というものを担っておろうかと思えます。もちろん、大きなまちづくりの方針として、関係の皆様方にお示しすることでご理解を深めていただくといった役割も基本的でございます。

また、2点目、今後、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会や関係者の方々との協議の上で、Ver.2.0の案をまとめていきたいと考えております。これにつきましては、ご説明申し上げましたとおり、大阪・関西万博のハードレガシー、大屋根リングや静けさの森、この所有者である公益社団法人2025年日本国際博覧会協会さん並びに関係者の皆様との協議を進めるということが大きな論点になってございますので、こちらを進めてまいった上で、Ver.2.0のマスタープラン案としてお示しし、定めてまいりたいと、このように考えてございます。

(山口大阪府副知事)

この事業者公募をやる前段階として、いわゆる民間事業者に対してもこういう方向性でまちづくりをやってほしいという、こういうのがこのマスタープランだと理解をしたんですけども。そういう意味で言うと、Ver.2.0というのが、全く違うものができないというか、もしかしたら公益社団法人2025年日本国際博覧会協会との協議でいろいろ変更あるのかも分からないですけども、基本的には、ゾーニングとかまちづくりの考え方というのはVer.2.0になっても変わらないという理解でいいわけですね。

(尾花大阪府・大阪市大阪都市計画局長)

そのようなご理解のもとで進めたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(大田事務局次長)

ありがとうございます。ほかにご意見ございませんでしょうか。
ないようですので、最後に副本部長、本部長の順にご発言をいただきたいと思います。
まず、副本部長、お願いいたします。

(横山副本部長)

ご説明ありがとうございます。また、この取りまとめに際しては、多くの関係者と協議を重ねてきていただいたと思います。本当にありがとうございます。

ご説明いただいた中で、ぜひ、また今後パブリックコメント等も取りながら、またご意見を求めながら、夏頃をめざして2.0の策定となっていくと思います。この場所は大阪・関西万博と、そしてIR、もう次の大阪の一つの大きな拠点になる場所だと思っておりますので、ぜひ引き続き、事業者募集においても、民間事業者の創意工夫やノウハウを最大限発揮した計画をご提案いただけるように事業を進めていっていただきたいと思っています。

併せて、プランの中を見せていただくと、1期や3期、これは間違いなくIRと、今後、3期の開発も想定されますので、こことの連動というのも非常に大事になってくるかと思っています。

6ページでは、空間形成という形で書いていただいています。歩行者軸や、こういう空間でつなげていくという発想は非常に大事だと思います。

併せてもう一つ大事なのは、11ページの、エリアマネジメントの推進だと思います。長期的なまちづくりを進めていくに当たっては、エリマネ団体との合意形成というのは非常に重要ですので、これをあらかじめ想定してしっかり作って、かつ連携させていくというのは、将来的にまちづくりを進めていく上で非常に重要だと思いますので、この2期もそうですし、周辺との連携という観点もしっかり含めながら、最後に事業者募集においては、創意工夫がさらに発揮されてよりよい案がどんどん出てくるような、そんな事業をしっかり進めていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

以上です。

(大田事務局次長)

ありがとうございました。

では、本部長、お願いいたします。

(吉村本部長)

これから世界の諸都市がどんどん成長していく中で、都市間の競争になってくると思います。そしてやはり大阪というのが、世界においても選ばれる圧倒的な存在感のある都市にしていく、めざしていく必要があると思っています。50年から100年ぐらいの単位で、この大阪のまちづくりというのを見て、夢洲というのはベイエリアですから、圧倒的な非日常空間、突き抜けた非日常空間、ここをめざしてもらいたいと思います。

住民の皆さんがいないということがあって、なかなか都市部ではこういうことが少ないんですけども、夢洲の特徴は非常に広大な土地、埋め立て地であり、かつ、住民の皆さんがいませんので、だからこそこでしかできない圧倒的な非日常空間をめざしてもらいたいと思います。

そして、大阪のまち全体として見たときに、うめきたは今、グラングリーンにしろ、すばらしいまちづくりが進んでいます。これは世界的にも評価されています。大阪はやはり南北軸、御堂筋もそうですし、ミナミもそうですけれども、南北軸が非常に強くて、ここを強化していくのは当然なのですが、併せて東西軸、今、東の拠点としての大阪城公園、それから難波宮跡、大阪城東部地区、ここもかなり魅力の高いエリアの拠点としてのまちづくりを進めていっています。

そしてやはり、バイエリアが非常に東西軸の西の拠点として非常に重要になってくると思いますし、バイエリアは世界においても、どの都市においても非常に価値の高いエリアでもありますので、この勢威というのは、やはり夢洲に大きく関わっていると思います。そういった観点から、広い目線で、この夢洲の特性、あるいは、これから都市間の競争の中で、圧倒的な非日常空間をここで作るのだという思いを、ぜひ込めて進めてもらえたらと思います。

このまちづくりを、ここでしかないものを作ると、それによって大阪というのが、より個性豊かなまちになり、もともとエンターテインメントが非常に強いまちでもありますから、開放性もあって、大阪人の気質というか、ほかにはないものがたくさんありますし、そういったものをここに表現をしていってもらえたらなど。大阪でしかないものをここで作って突き抜けていくということが重要だと思います。

1期はIR、そして、2期が大阪・関西万博のレガシーも生かしながら、圧倒的な非日常空間、エンターテインメントの拠点、それでさらには、3期はまだですけども、それがあるわけですから、そこをトータルである意味考えながら、この2期のエリアについては、夢洲第2期区域のマスタープラン、今挙げていただきましたけれども、ここでしか体験できない圧倒的な、突き抜けた非日常空間を夢洲で作っていくのだと、高付加価値のまちを作っていくのだということを、そして、大阪の個性を生かしたまちを作っていくのだということをぜひ進めていってもらえたらと思います。そして、その中で今回、大阪・関西万博もあるわけで、大阪・関西万博のレガシーを受け継いだものをしっかりと進めてもらいたい。

そういう意味でも、大屋根リングと静けさの森というのは今、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会が持っているものでもありますから、ここについては、夏までの間に公益社団法人2025年日本国際博覧会協会関係者等とも協議しながら、広い視点を持ったまちづくり、ここでしかできない圧倒的な非日常空間、ここが夢洲にあるのだと。これは、大阪のある意味新しい拠点なのだというまちづくりをめざしてもらいたい。そしてまた、その可能性が夢洲には十分あると思いますから、その可能性や、夢洲のポテンシャルを最大限発揮するまちづくりを皆さんと一緒に作り上げていきたいと思いますので、よろしくお願

いたします。

(大田事務局次長)

ありがとうございました。

では、議題1のご議論の内容をまとめますと、本日提示されました案によりまして、パブリックコメントを実施し、マスタープランを策定する。その後、2025年度後半の開発事業者募集に向けて検討を進めていくということでしょうか。

では、よろしくお願いいたします。議題1は以上です。どうもありがとうございました。

議題1のみの関係者の皆様はご退席ください。

(長澤事務局次長)

それでは続きまして、議題2に移ります。

資料4につきまして、池田大阪府政策企画部成長戦略局長から説明をお願いいたします。

(池田大阪府政策企画部成長戦略局長)

大阪府成長戦略局長の池田でございます。Beyond EXPO 2025の現在の検討状況についてご説明いたします。

資料4の2ページをご覧ください。まず、大阪経済の動きについてです。本日お示ししておりますのは現時点での検討内容であり、今後、有識者や民間シンクタンクの意見もお聞きしながら分析を深めてまいります。

3ページをご覧ください。大阪経済の動きを踏まえた考察の総論です。近年の大阪経済は、新型コロナによる一時的な落ち込みはあったものの、府市一体の成長戦略の実行やインフラ整備、まちづくりの推進などにより堅調に推移しています。また、2018年に、国家プロジェクトである万博が決定してから、会場整備やインフラ整備、ホテル建設などにより、万博開催は直接・間接的な効果をもたらし、大阪経済に大きなインパクトを与えていると考えられます。なお、卸・小売、運輸・郵便、宿泊・飲食等の業種は、コロナにより大きなダメージを受けましたが、順調に回復しています。

4ページをご覧ください。左上のグラフですが、2022年度の府内総生産について、名目では43.1兆円と、過去最高。実質では41.4兆円で、過去3番目。実質成長率は、全国の1.4%を上回る3.2%となっております。

次に、左下のグラフは、主な業種別府内総生産の推移ですが、2018年度以降の傾向では、建設、製造、不動産分野では、民間の設備投資が活発化していることや、これに加え、人手不足等を背景に、専門・科学技術、業務支援サービスも上昇していることが見て取れます。

5ページから12ページまでは、大阪経済に関する詳細データとなっております。

次に、13ページをご覧ください。万博後の持続的な成長に向けた道筋について、本日は現時点での検討状況をご報告させていただき、Beyond EXPO 2025(案)の取りまとめに向け

た今後の方向性についてご議論いただきたいと考えております。

14 ページをご覧ください。副首都ビジョンでは、2050 年代に経済規模を現在の約 2 倍にする目標、GDP の年平均 2 % 成長を掲げており、大阪経済に好影響が出ているこの機を捉え、更なる投資を続け、大阪経済の成長をさらに加速していく必要があります。副首都ビジョンに掲げる 3 つの方向性、「チャレンジを後押しする機能」「暮らしやすさ、働きやすさ、楽しさを高める機能」「都市としてのベーシックな機能」を強化するとともに、万博のインパクトを最大限活用し、万博後の持続的な成長を実現する必要があります。

15 ページから 18 ページまでは、1970 年万博後の大阪経済の低迷の要因分析となっております。大きな要因としては、東京一極集中と、産業構造の転換の遅れの 2 点と考えております。

19 ページをご覧ください。万博後の持続的な成長に向けた取組の方向性についてです。副首都ビジョンでは、年平均 2 % の目標を掲げています。コロナ前の大阪の平均成長率が 1.4 % であり、2 % の実現のためには大阪の成長を更に押し上げる取組を行う必要があります。

20 ページをご覧ください。今後、市場規模が拡大することが見込まれる産業分野をお示ししております。こういった成長分野の市場をいかに大阪が取り込んでいけるかが課題と考えています。

21 ページをご覧ください。大阪の成長を押し上げるために取り組む項目のたたき台として、「投資を呼び込む」「インバウンド需要を取り込む」「成長を加速する多様な人材の活躍、生産性の向上」「成長を支える都市基盤の強化」の 4 点を考えております。これらの取組をオール大阪で実行し、持続的な成長を実現し、府民の QOL の向上等につなげてまいります。

22 ページをご覧ください。これら 4 つの取組を具体化するための視点について、現在、「イノベーション」「ビジネス基盤整備」「都市魅力・観光」「まちづくり・都市基盤」「人材」の 5 つのタスクフォースを設置し、議論を進めております。なお、戦略期間は、万博終了後から 2035 年度までの 10 年間とし、毎年進捗管理を行った上でバージョンアップを図っていきます。

次に、4 つの取組のそれぞれの検討状況についてご説明します。まず、投資を呼び込む取組についてです。25 ページ、26 ページには、大阪において研究開発、実証が進む新技術や製品等についてまとめております。

27 ページをご覧ください。これらの技術は研究開発、実証実験、社会実装など、技術、分野ごとに段階が異なっており、また、今後イノベーションの芽となる新技術を育てることも必要です。また、チャレンジしている企業もスタートアップから大企業まで、資金力や人材体制は大きく異なっています。このことから、今後、ステージごとの企業ニーズに見合った支援の仕組みを検討していくことが必要と考えております。

28 ページには、その支援イメージを示しており、今後タスクフォースにおいて具体策を検討してまいります。

29 ページをご覧ください。新技術の実装化、イノベーションのために国内外からの投資を呼び込むためには、実装化に向けた支援体制の構築と、海外とのネットワークづくりが必要です。万博において、海外トップクラスの投資家やスタートアップ等が集う「Global Startup EXPO 2025」、GSE と呼んでおりますが、これが開催されるため、この機会を最大限に生かしていきます。

30 ページ以降は、令和 7 年度の大阪府、大阪市の関連事業を記載しております。

次に、インバウンド需要を取り込む取組についてです。38 ページをお願いいたします。大阪は、東京に次ぐ外国人旅行者の訪問先であるものの、滞在日数やリピート率、消費額は東京と差があり、さらなる取組が必要です。

39 ページをご覧ください。2024 年の外国人旅行者は、全国、大阪とも、過去最高の見通しであり、今後、大阪の魅力を生かした新たなコンテンツの創出、おもてなし体制の充実、ターゲットに刺さる魅力発信が必要と考えており、それにより新たな旅行者の獲得や、消費単価アップにつなげます。

41 ページ以降に、令和 7 年度の大阪府市の関連事業を記載しております。

次に、成長を加速する多様な人材の活躍、生産性の向上についてです。47 ページをご覧ください。大阪の生産年齢人口、労働力人口は少子高齢化により減少しており、今後も更に減少していきます。また、労働需給の状況については、職種ごとの有効求人倍率にばらつきがあるなど、企業が求める職種と求職者の意向にミスマッチが生じています。

48 ページをご覧ください。先ほど申し上げた、労働市場の状況や IoT、AI などの技術革新を踏まえ、今後は新たな労働力を確保する、一人ひとりのスキルを上げる、企業の経営革新により生産性を向上させるという観点で取り組む必要があると考えています。

49 ページには、それぞれの項目について取組のたたき台を示しており、今後、タスクフォースで具体的な取組を検討してまいります。

次に、成長を支える都市基盤の強化についてです。54、55 ページには、これまでに実施、あるいは現在実施中のまちづくり、交通・空港のインフラ整備の取組をまとめております。

56 ページをご覧ください。今後、現在実施中のプロジェクトを着実に進めるとともに、さらに民間投資を誘発し、国際競争力を高めるまちづくりを展開する必要があります。そのために、国際競争力の強化に資する拠点形成という観点から、ベイエリアの活性化、都心部のポテンシャルの強化という観点から、東西都市軸の強化、大阪の中核を担う拠点の強化という観点から、地域の拠点機能の強化に取り組むことが必要と考えております。

57 ページ、ベイエリアの活性化については、記載しております、集客交流拠点や新産業拠点の形成、プロモーション等を地元自治体と連携して進めることが必要です。

58 ページ、東西都市軸のさらなる強化については、夢洲周辺、大阪城公園周辺のまちづくりを進めます。

59 ページ、地域の拠点機能の強化は、各中枢エリアの拠点形成に加え、市街地リノベーションの促進等、モデルになるような地域のまちづくりを進めることが重要と考えており

ます。いずれのテーマにつきましても、今後、タスクフォースにおいて具体的な取組を検討いたします。

最後に、今後の進め方についてです。65 ページをご覧ください。本日の会議のご議論を踏まえ、今後、有識者等のご意見をお聞きしながら、万博の効果について多角的な視点から更に検討を行うとともに、府市の2月議会でご議論いただきます。その上で、戦略全体の方向性やタスクフォースごとの方向性について検討を深めるとともに、新たな取組についても検討いたします。

併せまして、国、経済団体とも連携し、オール大阪の戦略として検討し、今年夏頃のとりまとめをめざします。具体的施策については、令和8年度当初予算案、必要に応じて令和7年度中の補正予算に計上するとともに、国にも必要事項を提案してまいります。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

(長澤事務局次長)

ご説明ありがとうございます。

それでは、ただいまの説明を踏まえまして、意見交換に移りたいと思います。

まず、上山特別顧問、よろしくお願いいたします。

なお、上山特別顧問から提出いただきました資料につきましては机上に配付をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(上山特別顧問)

それじゃあ、用意してきた資料に沿ってコメントをさせていただきます。

今、ご説明いただいた内容は違和感なく、特に改めて思ったのが、地価、土地の値段ですよ。これが全国と東京は1.7倍増に対して大阪は3倍増、2012年比ですけれども上がっている。あと、雇用者数も、全国が5%弱なのに大阪は10%ということで、大阪は過去の遅れを急速に取り戻している。人口増も含めてですけれども、将来への期待というのが実際数字に表れてきているなと思います。

ということで、方向性としてはいい感じになってきている。しかし今後のビジョンの描き方については、今回は中間段階の作業結果をお聞きしただけですけれども、切り口を変えていく必要があると思いました。

象徴的な言葉で言うと、さっき夢洲に関して、知事からも「突き抜け」とか、「よそにな」という言葉がありましたけれども、もうちょっとはじけてもいいのではないかと。これではBeyond EXPO 2025らしくない感じがする。あえて言うと、1970againという感じ。全然違う切り口からのビジョンという発想もあってもいいんじゃないかと。

具体的には今回は経済の分析が中心で、これは不可欠です。けれども、経済を何とかしようということが全てではない。ほかのことをいろいろとやった結果、経済もよくなるというのが最近の都市経営だと思うのです。

他都市を見ると、クオリティ・オブ・ライフ指標を非常に重視していて、それを上げるために、NPO、市民も含めてみんなで頑張ろうという形でリーダーシップを発揮している。GDPを増やそうと思って頑張ろうというのは途上国の発想。みんなで GDP を上げましょうといっても頑張れない時代になっている。

それからあと、目標を掲げるときに、客観的な指標だけではなくて、主観的な指標、住民の満足度とか幸福感とかウェルビーイングとかウェルネスとかいろんな言葉がありますけれども、そういったものに対する理解も必要。

それから、主観指標の延長ですけれども、過去よりよくなっているとか、ほかの地域から大阪に来て移り住んでよかったと思っているとか、そういったことは極めて重要な主観であって、そういうことを達成したい。もうちょっと等身大で描けないのかと。主観的、定性的な目標もあってもいいと思う。世界からどういう都市と思われ、尊敬されたいか。隣に京都があって、圧倒的に魅力を誇っている。そういう意味で、今さら GDP ばかり掲げているというのはどうかと思います。

2 番目のところにつながるんですけども、大阪自身が持っている強みとか魅力というのがあって、それがゆえに大阪市は人口がどんどん伸びている。あと、インバウンド含めて観光客も非常に多いし、日本人に聞いても、行ってみたい都市の上位に大阪がくるわけです。なので、その強みとか魅力が何なのかということをもう一回掘り起こす必要がある。弱みのところばかり見ると、どうしても「経済で東京とか全国平均に追いつかなければいけない」というほうにいくけれど、これは大阪らしさとか特徴とか魅力というものとは違った作業になってしまう。欠点を整理する作業は中間段階までの現時点で十分できたと思う。欠点を何とかするという発想ではなくて、強いところを伸ばして突き抜ける発想に切り替えたほうがいい。

万博というのがよくも悪くも、何となく高度成長の夢をもう一度という感じにつながっている気がします。これはいろんな方々、財界の方々の発言なんかで特に思う。私も若い頃 1970 年万博を経験して感動した。しかし 1970 年のあの感動をもう一度大阪にという感じの 60 代、70 代の発想こそ諸悪の根源です。これからの大阪をどうしたいかは若い人たち中心に考えるべきです。そのときには決して経済ばかりではないだろうと思っています。

堺屋先生はそれこそ 80 代を超えておられたわけですけども、「大阪は楽しさを極めよう」としきりにずっとおっしゃっていた。楽しさを極めれば、人口も経済もいろんな課題解決もかなり前に進むんじゃないかとおっしゃっていた。これはまさに名言で、やはり大阪はエンターテインメントとか楽しさ、これを極めるというのが王道ではないかと思っています。

京都なんかは、松井市長になってから、市民の連携とかつながりとかを財産だと捉え直してビジョンを掲げておられます。必ずしも経済キャッチアップの発想でビジョンをまとめる必要がない時代です。そういう意味で、成長戦略チームという名前自体もやめたほうがいい。成長というと GDP のことになってしまう。結果的に GDP も必要だと思うけれども、GDP をどうやって増やすかだけ見つめて考えていても結局増えない。

「やる気のあるビジョン」というのが次の3番目のところにきますけれども、結局ビジョンというのは、企業とか住民とかNPO含めてみんなで担いでいかないと実現しない。やる気も出てこない。行政はインフラ、教育、弱者支援が中心なので、それ以外のまちの魅力づくりとか差別化とかは、住民と企業がどういうふうに連携してくれるか、そこに行政も入って横からサポートする発想が必要です。今日の資料を見ていると、行政が主役で引っ張っていきますという旧ソ連みたいな感じになっていて、若干違和感があります。

それから、今後の作業に向けて、裏のページにいきますけれども、現状分析でかなりよく整理はされているが、足りないのが、人口とその構成要素。年齢構成とか、あと、人口が大阪市は特に増えているわけですが、それはなぜかと。増えていることはすばらしいが、どんな人たちがどんな理由で来てくれているのか。背景に、暮らしやすさとか仕事とか魅力とかいろいろあると思う。そこをちゃんと掘ってさらに伸ばす。人口が増えれば経済も自然と活性化していく。人口を増やす要因という意味で、いわゆる社会環境指標も経済と同様に重視して分析する。人間関係、つながりとか健康寿命とか緑の多さとか、こういったところの分析をちゃんとやる。経済だけ見つめていては実態が全く分からない。

それから、大阪・関西万博をどう捉えるか。オリンピックなんかはロンドンとか東京が、レガシーブックという、結構精緻な分析までやっている。この棚卸しの作業は今回のビジョンとは別かもしれないけれども、レガシーの整理はやらないと、Beyond 万博のビジョンというのは完結しない。大阪・関西万博前と後で何が違うと議論をする。レガシーは大阪・関西万博がもたらす様々なハード、ソフトを広範に捉え直して、それをビジョンの中に取り込んでいく。万博レガシーの章というのが多分一つ必要になる。

今日の資料には総じてある種の強迫観念があると思う。第1が経済が極めて重要、第2はキャッチアップが重要、第3が東京に負けない。この3つのある種の強迫観念があって、これは避けられない現実ではあるんだけど、そればかり見つめていても、Beyond EXPO 2025 という次のステップは見えないんじゃないか。現状分析はここまでにして、ここから先は突き抜けるというか、20代、30代チームで楽しく作業をやっていただければと思います。

庁内会議ばかりやると、どうしても過去の資料とか実績とか、できていないことの整理になる。外にヒアリングに行くとか、調査に行くとか、1人10人ぐらい外の人と会話するとか、そういうふうに作業を転換して、上を向いて作業をする。作業のやり方自体も Beyond が必要ではないかと思います。

以上です。

(長澤事務局次長)

ご説明ありがとうございます。

次に、ご出席の皆様から、資料4に関しましてご意見などございましたらお願いいたします。

なお、本部長、副本部長におかれましては、最後に改めて総括いただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

山口副知事、お願いします。

(山口大阪府副知事)

上山先生、ありがとうございます。先生から色々ご意見いただいたので、少し言い訳をさせていただきます。

まず、経済偏重やんけと、そのとおりだとは思いますが。ただ、先生ご存じのように、大阪府、大阪市の歩んできた道から見れば、やはり全国 GDP の下をいっているとか、なかなかずっと低迷した状態であったというのが、ここへきて少し上向きになったということで、この分析というのはどうしても中心になってくる。

ただ、突っ込み不足ではないかというのはまさにそのとおりで、なぜこうなったのかというのが、人口も増えていますが、そのへんの要因分析というのが十分できていない。だから、なかなか次の手が明確じゃないということですし、さらに、経済に非常に力が入ってやったがために、ほかのところ、魅力づくりとか、大阪の本来持っているものをどう伸ばすかというところの議論が非常に欠けているというのはおっしゃるとおりだと思います。

正直、いろんな人にヒアリングには行っているんですけども、これをやはりうまく我々自身が結びつけられないし、しっかりした一本の線というか、哲学が十分ないので、こういう形で取りあえずまとまっていると思うのですが、ただ、我々がこれを見て、やはり大阪・関西万博誘致効果というのは相当あったのではないかと見ています。

コロナから回復したのが全国平均よりもかなり早いスピードになっているということなのかも分かりませんが、これをしっかり生かして、経済だけでなく、もちろん、この大阪・関西万博のレガシーとかそういうものも組みながらやっていかなければならないということで、これからどう肉づけして中身を作るかということだと思うので、ぜひ上山先生に力をお借りして、多角的に議論をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(長澤事務局次長)

ありがとうございます。

ほかにご意見等はございますでしょうか。

高橋副市長、お願いします。

(高橋大阪市副市長)

説明ありがとうございます。

先生のほうから、大阪・関西万博のレガシーとして、この Beyond EXPO 2025 の、これからの大阪の旗印は何だというご指摘かなと思っています。ちょっとコメントは大きな大義

から外れるんですけれども、細かいことなんですけれども、前回、先生のほうから、やはり大阪・関西万博のレガシーとして、QOLの高い、魅力の高い都市になって、優秀な人材、活力のある人材を都市に呼び込んで繁栄していくことが重要やというご発言があったので、それに関して少しお願いしたい点が。

今回、高度な人材を都市に呼び込んでいくためには、私はやはりみどりが必要やと思っていまして。今日の資料23ページのところで、タスクフォースといろんな施策がざっと一覧表で整理されてあるんですけれども、このところで、みどりという言葉が全くないので、私ども、昨年9月にうめきた2期、グラングリーンのところで、駅前で大規模な都市公園を作って、非常に大きなインパクトがあったと思っていまして。うめきただけじゃなくて、やはり都市全体で、道路から公園から、それから民間のそういう公開空地も含めて、みどりをどう確保していくかという視点が、これからの都市の魅力を高めていく、ブランドを高めていくためにも大事やと思っていますので、ぜひとも、特定のテーマにはなるんですけれども、どこかで少しみどりということもしっかりと検討してほしいなというのが一つ。

それからあと、これも高度人材が絡むんですけれども、私ども、いろんな大阪市の市有地を処分するに当たりまして、マーケット・サウンディングをいろいろやっているんですけれども、その際に、やはり高度人材を呼び込むためにインターナショナルスクールを誘致したいということが盛んに出てまいります。ですから当然、大阪市の持つ、あるいは大阪府さんの持つ公共の財産を使ってインターナショナルスクールを誘致する場合と、また、民設で誘致する場合とパターンが変わると思いますので、そういったところでインターナショナルスクールを誘致することも一つの検討の視野に入れてほしいなと。そうすることによって、普通のエリアのブランド力も上がってまいりますので、細かいことになりますけれども、そういった視点で、これから検討の中では考えてほしいなと思っています。

私からは以上です。

(長澤事務局次長)

ありがとうございます。

ほかにご意見等ございますでしょうか。

(山口大阪府副知事)

ごめん、ちょっとだけ。

先生、我々はやはり、なかなかいろんな強迫観念から抜け出せないんです。時代は強迫観念から、大阪らしい都市を作れとか魅力を作れという転換にそろそろきているのかなと思うんですけれども、なかなかやはり、職員の中ではそう簡単には浸透しなくて、先生もご存じのように、10年以上かなり厳しい行政運営をやってきたということもあるので、そういう職員たちに対するメッセージというか、そろそろもう抜け出して違う視点で考えなあか

んねんでというようなメッセージがあれば教えてもらいたいんですけれども。

(上山特別顧問)

同世代でよそから大阪に来ている人としやべればいいんじゃないですかね。職員同士でしやべらないで、外の人としやべる。転勤というよりは、起業するために大阪に来ましたとか、何か一芸があって、東京より大阪のほうがいいと思って来たとか、そういう人はちらほらいらっしゃるので。大阪がなんで好きなんですかというのを、よそから来てくれた人に聞くと。そうすると、もうちょっと自信が持てるんじゃないかと思うんですけれども。

(山口大阪府副知事)

なかなか自信が持てなくて。やはりしっかりと人口が増えているとか、経済がよくなりつつあるマインド、その部分をしっかりと分析してということなんでしょうね。

(上山特別顧問)

そうですね。私、京都市でも特別顧問をやっているんですけれども、やはり京都はさすがです。自分たちの伝統は揺るぎないものがあって、圧倒的ないい意味でも悪い意味でも過剰な自信があって、その先に未来が開けるという大前提があります。大阪の場合はどうしても、すぐ東京と比べたり、経済がという話になるんだけど、大阪は経済だけじゃない要素がものすごくある。その部分の掘り起こしが、まち全体で多分遅れている。文化も相当あるし。外から人が来るというのはなぜなのか。経済が悪いという割には人が結構来るわけですよ。それは変ですよ。何かの魅力があるからきているわけで。

大阪市の人口増を見ても、京都、堺、神戸が低迷している中で圧勝している。ということは金がもうけられるから来ているわけじゃなくて、ほかに何か都合のいいことがあるからきていただいている。そこがやはり大阪の秘密だと思うんです。その辺りの掘り起こしと、あと、西日本の中核都市であるというスケール感。名古屋にもいろいろあるけれども、やはり東京の次は大阪であると。それは一体何なんだと。経済は愛知県と名古屋のほうが上にいますけれども、やはり大阪のほうが楽しいし、日本第二の都市だとみんな思っている。じゃあそれは何なんだと。そこらへんの強みの再構築をすると、結果的に弱みも強迫観念もだんだん抜けていくんじゃないかなと。まずは楽しくしろというのが堺屋先生の遺言なので、このプロジェクトも楽しく作業したほうがいいと思うんです。

(山口大阪府副知事)

ありがとうございます。すみません。

(長澤事務局次長)

ありがとうございます。

そろそろお時間となりましたので、副本部長、本部長の順にご発言をいただきたいと思います。

まず、副本部長、よろしくお願いいたします。

(横山副本部長)

まず、資料の取りまとめをありがとうございます。そして、上山顧問もご意見ありがとうございます。

幾つかありまして、前回もそうなのですが、顧問おっしゃっていただいた QOL の向上というのは一つ重要なところかなとも思っています。今回、いろいろ資料を調べていただいて、経済の成長指標と書いていただいているのですが、Beyond EXPO 2025 の方向性として、QOL、要は、このまちに住んでよかったと思えるようなまちをめざすというので、その QOL の指標を、地域幸福度とか住民幸福度というのを、例えばですが一つあると思っています。これはデジタル庁のほうでもいろいろ、各自治体にも発表してもらっていて、ウェルビーイング指標というのがあって、住民の満足度を、定性的なのか定量的なのか分からないですけども、それをもう一定、成果指標を KPI 値として設定して、しかも、それを 20 代、30 代の満足度に振り切ってもいいんじゃないかとちょっと思っています。若い人がこのまちに住んだらめっちゃ幸せやなと思ってもらえる大阪をめざすと、結果的にみんなハッピーになるように思います。

これはやはり行政なので、押しなべてすべからく皆様にという指標を立てざるを得ないと思うのですが、この Beyond EXPO 2025 は副首都ビジョンがあるので、副首都ビジョンには、大きく経済成長やいろんな政策を入れながら、大阪・関西万博をやったその向こうの大阪のイメージとして、若い人がワイワイと楽しんで暮らしていけるような大阪というところに成果指標を置いてもいいようにちょっと思います。

これは、現状分析として非常に優秀に各数値をまとめていただいているので、これに加えて QOL の向上というイメージで、どう成長の成果を置いていくかというところを一定もう少し深掘りしていただいてもいいのかなというのが一つ。

副首都ビジョンがあって、Beyond EXPO 2025 のビジョンは、じゃあそれはどういう差があるのかというか、何が違うのと言われたときに、ずっと全職員が出るようにしたほうがいいなと思っています。副首都ビジョンは成長戦略に軸を置いて大阪府市で力を入れて動いていく、結構幅広いビジョンやと思うんです。Beyond EXPO 2025 は上山顧問が言うように、もう少し振り切るというか、ある意味絞っていてもいいのかなと思っています。例えば、22 ページでタスクフォース、いろいろまとめていただいているんです。それぞれのチームがすごく優秀にまとめていただいているのですが、とりまとめに当たって、例えばですけども、ちょっと優位性というか、ここからイノベーションと都市魅力とか、もうこっちに振り切るとか、大阪はイノベーションが生まれて成長していくまち。例えば、さっき副市長がおっしゃられた、みどりとかアートとか観光、ナイトエンターテインメント。こういうわくわ

くするビジョンを更にめざしますと。せっかくエキスポがあって世界中から注目された今だからこそ、経済成長だけじゃない、世界都市としてわくわく楽しめる、過ごしやすい、しかも、若い人が未来を、このまちに住むと感じられる。そういうビジョンですと言ったほうがいいような。さっき顧問がおっしゃられたとおり、若い人がそういう視点でまとめて、大阪に住む元気な人たちと一緒にビジョンに巻き込んでいって成長していくような、そういうビジョンの方向性でさらに深掘りしていてもいいのかなというのを感じたところです。

このタイトルで書いていただいているとおり、これは現状報告として、大阪のまず今と、そして、向かう方向性ということで、非常に幅広くまとめていただいているので、この方向性でそれぞれベクトルは当然間違っていないので、ここから Beyond EXPO 2025 として向かっていくところに少し絞る、振り切る、こういう発想を持って Beyond EXPO 2025 の取りまとめ作業を引き続き進めていただきたいと思います。

併せまして、レガシーのところは、ここに入れ込むのか、ちょっと別のビジョンとして議論するのかというのが重要なのですが、この大阪・関西万博のレガシーというところも、レガシーレポートとか、それぞれのイベントで事業体を作っていくかといけないと思うので、レガシーとは何ぞやというのをここに入れるのか、もしくは別立てしていくのかということも併せて検討していかないといけないと思います。

以上です。

(長澤事務局次長)

ありがとうございます。

続きまして、本部長、よろしくお願いします。

(吉村本部長)

まず、事務局に1点確認なんですけれども、先ほど市長がおっしゃられた、副首都ビジョンと、この Beyond EXPO 2025 との関係、位置づけ、立てつけはどう整理しているんですか。

(川端大阪府政策企画部長)

先ほど成長戦略局長からもありましたけれども、副首都ビジョンで掲げております、2%成長を実現するための、特に万博レガシーを生かして、どう成長エンジンを回していくかという実行プランが今回の Beyond EXPO 2025 ということで、現在とりまとめの作業をやっているという形でございます。

(吉村本部長)

副首都ビジョンには、そういった大きな経済の成長の目標であったり、あるいは統治機構の在り方であったり、副首都としての在り方であったり、そういった大きなところをまとめていると思います。であるならば、先ほど市長もおっしゃっていましたが、この

Beyond EXPO 2025 は、もう少し尖った、大阪・関西万博をせっかくやるので、その視点というのをもう少しここに入れ込むべきなのかなと思います。

まず、この資料の作り上げで、現状報告をここまでまとめてくれたことは本当にお疲れさまでしたという思いということなんですけれども、これからの視点をもうちょっと絞り込んだほうがいいのかと思います。

というのはまず、やはり大阪・関西万博をするということで、誘致が決まり、大阪にどういう効果をもたらしているのか。まだ大阪・関西万博は始まっていませんが、今の段階で、随分大阪の投資、あるいは、皆さんの取組は変わってきていると思うんです。あるいは、まちづくり、民間の皆さんも含めて、大阪・関西万博がきっかけでいろんなまちづくりが進んでいます。まちづくりだけじゃなくて、いろんな中小企業も含めて、いろんな技術者も、こういったものを作ろう、水素船を造ろうじゃないとか、空飛ぶクルマを作ってやろうじゃないとか、いろんなものが生まれていっているわけです。魅力あるまちづくりで宿泊施設なんかも非常に増えていたりとか、不動産価格も上がったり。そして、面白そうだなということで、人口の流入というのは、大阪は非常に人口が増えていると、関東以外で数少ないそういったエリアになっているのは、この大阪であると。

やはり大阪・関西万博が決まり、いろんなまちづくりとか中小企業、あるいは大企業も含めて、いろんな投資も増え、そして、次の新しい未来をめざしていこうというのがあると思うんですけれども、そこをもう少し具体的に分析の視点に入れてもらいたいと思います。総花的な大阪の成長というよりは、大阪・関西万博をキーとしてどういうふうにまちが変わってきて、みんなどういうところをめざしていっているのか。この辺りは上山先生がおっしゃったとおり、ヒアリングなんかも。実際いろんな企業もそうですし、若い人もそうだし、大阪に来ている人もそうです。この間の報道で、本社は東京に行くばかりでしたけれども、本社は東京から大阪に戻ってくるのが、実は初めて超えたか何か、すごく数が多くなったという報道を見たんですけれども。じゃあそれはなんでなのということも含めて、この大阪・関西万博を機に、いろんなビジネスであったり、皆さんが言うような期待のもとでの投資というのはあると思うんです。そこをもう少し、大阪・関西万博が大阪にどういう効果をもたらしているのかという視点の分析をしてもらいたい。

まだ大阪・関西万博が始まっていないので、大阪・関西万博が始まったらそのチームには、実際、万博会場にもどんどん足を運んでもらって、行政マンというよりは、世界各国もいろんな期待をしてやっているわけですし、万博会場でどういうことが生まれているのか、そういう視点も踏まえながら、この大阪・関西万博がどうインパクトを与えるのだろうかという視点で万博会場を楽しんでもらって、自分も楽しんで、そして、これが未来に、大阪の成長というか、大阪が豊かになっていく上でどう役立つのだろうかということぜひ分析してもらいたいと思うんです。この夏ぐらいにこの計画を作っていくということですから、もう大阪・関西万博も開幕していると思うので、開幕したときにいろんな化学反応が起きると思うんです。その視点はまずしっかり持ってもらいたい。そういう視点の現状分析をしっかり

やってもらいたいというのが1点目です。

2点目なんですけれども、その現状分析をするからこそ、大阪・関西万博のレガシーであつたり、あるいは、その次の、大阪の成長って言うと上山先生に怒られますけれども。旧ソ連的とまで言われますから。成長というか、豊かに。結果としてそれが成長する、結果として経済が強くなるということにつながればいいと思うんですけれども。いかに次の豊かな生活に、あるいは豊かな経済に向けてのものにつながっていくのかということだと思うんです。ペロブスカイト太陽電池なんかも堺に工場を造るという話もありますし、生きる心臓モデルなんかも非常に面白いと思いますし、それ以外でも、中小企業も400ぐらい大阪ヘルスケアパビリオンだけで出展しますから、いろんな人がいろんなチャレンジをしているので、そこをもうちょっと分析してもらいながら。観光なんかも明らかに強くなってきていますね。そういった、次の大阪の成長というか、未来の発展に向けた施策というか、その検討を進めてもらいたい。大阪ではみんな結構チャレンジして、失敗してもええからやってみようよという非常に寛容性があって、ほかにはないエリアで、大阪の特徴があると思うんです。最後は人だと思うんですけれども、人の特徴も非常にオープンで多様性で、いいやんかと、やってみようよということは、人も企業もそういう精神が強いので、だからこそ新しいものが生まれやすいまちだと思いますから、そういった大阪・関西万博を通じて、まさに未来社会をそこで、実験場やるわけですから、それを大阪・関西万博のレガシーとしてどういう大阪の未来をつくっていくのか。まさに Beyond EXPO 2025 とは何だろうという視点を、この二つ目として、戦略として検討してもらいたいと思います。

三つ目ですけれども、そういった分析と戦略を作っていく、そういう視点からやっていくとなると、やはり検討体制の強化も必要なのかなと思っています。なので、今、この府市の検討体制、タスクフォースをやってくれていますけれども、まず、いろんな有識者の意見であつたり、外部の意見をしっかり聞いて作っていくと。そして、先ほど市長がおっしゃったような、あるいは、僕がこうやって言っている、上山先生のアドバイスいただいたようなことがどうすれば実現できるかの体制をどうすべきかというのを、副市長、副知事で1回体制を再度練り直してもらいたいと思います。今の現状報告からすると、少し視点も違った観点も必要になってくると思いますし、その体制というのが何より大事だと思いますので、この点は副市長、副知事で、申し訳ないですけれども、もう1度その検討体制を再度練り直してもらって、あと、有識者の皆さんにもしっかりサポートしてもらって。有識者の皆さんも、上山先生もそうですし、また、その他の有識者の方もいらっしゃいますから、ちょっと外部の意見を積極的に聞きながら、この Beyond EXPO 2025、エキスポの効果と、そして、それをさらに飲み込んだレガシーとは何だろうというのを、そしてさらに、大阪が成長していくために、これをいかにレガシーとして作り上げていくのかというのを、特化したものをもってもらったほうがいいのかなと。

もちろん、万博会場だけに限らず、今、大阪湾がいろいろ舟運であつたり、ああいうのも広げたりしているじゃないですか。ある程度面で見ても、そして、エキスポの思想で見て、次

の大阪の突き抜けた Beyond EXPO 2025、大阪の未来ということを、魂込めたものを作ってもらえたらと思います。

地盤となるのは副首都ビジョンでありますので、そこと何が違うんだと思われなように、ここはやはり大阪・関西万博に特化した、大阪・関西万博の思想と考え方と、そして、会場だけじゃなくて、大阪全体を見た、面で捉えた Beyond EXPO 2025。ほかの都市ではなかなかないよねということになってくると思うんですけども、いかに大阪の個性を伸ばしていくのかと。そういった戦略を作ってもらいたいと思いますので、よろしくお願いします。

(長澤事務局次長)

副本部長、よろしくお願いします。

(横山副本部長)

ありがとうございます。

今、知事や顧問、皆さんからご意見あったとおり、ちょっと作業のほうは大変かと思いますが、引き続き進めていただけたらと思います。

1点だけ、イノベーション創出に関して、これはビジョンというか、大阪市のほうで企業の投資を呼び込むための助成制度をやっております、これはぜひ府市一体となって打ち出すことができれば、その効果はより発揮できると思いますので、府のほうにおいてもぜひ積極的に支援策のほうを講じていただきまして、そして、イノベーションが生まれるまちをめざしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(長澤事務局次長)

ありがとうございます。

そうしましたら、これで議題2のほうの議論をとりまとめさせていただきますと、本部長からは、大阪・関西万博をキーとした効果の現状分析、これを踏まえた全てについての検討を深めること、あるいは、府市の検討体制を強化すること。

続きまして、副本部長からは、QOLの向上の視点を持つこと、それから、若者幸福度についての新たな指標について検討すること、そして、企業の投資を呼び込むための新たな助成制度、これについて府も考え、検討すること。

上山特別顧問からは、本日、提出いただきましたペーパーでのご意見等々、様々なご指示やご意見を頂きました。これらのご指示等を踏まえまして、大阪の現状分析や取組の方向性、具体的な取組内容等について検討を深め、本年夏頃のとりまとめをめざすということでしょうか。よろしくお願いいたします。

本日の議題は以上となります。ご議論、誠にありがとうございました。

特別顧問をはじめ、皆様、お忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。

これで終了いたします。

なお、本日の囲み取材は実施いたしませんので、よろしくお願いいたします。